

2019 年度

授業概要

科目名	作業療法総合演習Ⅱ					授業の種類	演習	必修・選択		必修
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	配当学年時期	1年	前期
【授業の目的・ねらい】 ADLの概念について学び、ALの重要性を知る。その上で、基本動作の介助の方法を学び、実習に生かすことが出来る。										
【実務者経験】 作業療法士として兵庫県立のじぎく療育センター、兵庫県立光風病院(現ひょうごこころの医療センター)に勤務、小児領域・精神科領域のリハビリテーションに従事経験。										
【授業全体の内容の概要】 前半はADLについてグループ演習を通して学ぶ 後半は基本動作の介助を実技を通して学ぶ										
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ADLの概念を説明することができる。 寝返り、起き上がり、移乗の基本的な介助ができる。										
回数	講義内容								準備物(教材)	
1	ADL概論（ADL/APDL/IADL概要と構成）									
2	ADL評価の目的と代表的な評価法の概要について調べる（グループ内で分担）									
3	ADLの代表的な評価の概要の発表									
4	FIMの詳しい説明・事例検討①									
5	事例検討①の発表、事例検討②									
6	事例検討②の発表、基本動作について									
7	動作分析について 寝返りの動作観察と文章化									
8	寝返りの全介助の介助の練習									
9	起き上がりの全介助の介助の練習									
10	移乗の全介助の介助の練習									
11	移乗の全介助の介助の練習									
12	寝返り、起き上がり、移乗の介助の練習									
13	寝返り、起き上がり、移乗の介助の練習									
14	実技確認演習									
15	実技確認演習									
	定期筆記試験									
【使用教科書・教材・参考書】 PT・OTビジュアルテキストADL 柴喜崇・下田信明編 羊土社 実践リハビリテーションシリーズ 脳卒中の機能評価－SIASとFIM(基礎編) 千野直一・椿原彰夫他著 金原出版										
【準備学習・時間外学習】 学んだ内容を定着させるため、復習を毎回行う。 実技に関しては、身につけることができるまで、練習を行う。										
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。										